



高橋 健雄 議員
(無所属)



アルコ236およびナウマン公園の今後の対応について以下の点を伺う。

(1)アルコ236は毎年度採算の取れない状況の中で、今後も事業継続させるのか。継続の場合、新たな民間事業者の参入の考えは。
(2)ナウマン公園は今年度多額の予算をつけ遊具等を整備しているが、今後さらに整備を行う計画があるのか。また、その場合の費用対効果について。

町長 (1)アルコ236は、多くの村民が待ち焦がれた地域唯一の入浴施設であると同時に、厳しい社会情勢下において、交流人口の増加が期待できる重要な施設であり、観光を基軸とした地域の活性化に欠くことができない必要な施設と認識している。

アルコ236と道の駅・忠類の現在の指定管理者である株式会社忠類振興公社は、昭和63年6月に地域住民64名の出資により忠類観光物産株式会社として設立され、

問
アルコ236に新たな民間事業者の参入の考えは

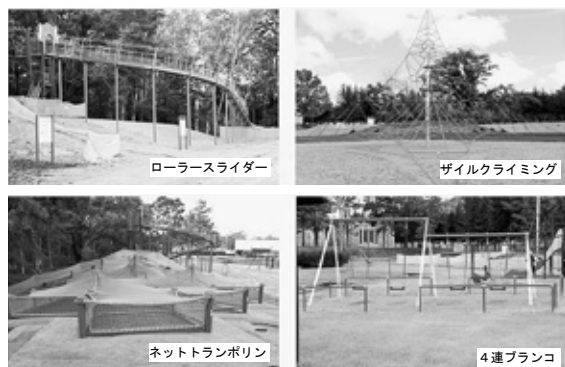
答
来年度以降の指定管理の候補者も、引き続き忠類振興公社を選定する考えで準備を進めている

忠類村レストラン兼特産物販売センターの営業委託を受けたことがその原点であり、開業以来連続10年間、黒字決算を維持し、平成6年度から17年度までの12年間は、村に施設使用料として総額2億2340万円を支払い、村財政に大きな貢献をしてきた。

現在の指定管理期間は、本年度で終了するが、平成29年度以降の指定管理の候補者の選定においても、現在、当社が進めている民間ホテル事業者との連携に向けた取組や、これまで当社が地域に果たしてきた役割と雇用創出を始めとした経済的な効果などに加えて、忠類地域の住民の当社に寄せる思いに鑑み、株式会社忠類振興公社を選定する考えの下で、現在、準備作業を進めている。

(2)ナウマン公園は単なる地域の公園ではなく、家族連れで賑わう観光施設としての役割が大きいこと、加えて高規格幹線道路の忠類インターチェンジに近いことから多くの方々を忠類地域に呼び込む

重要な施設の一つと成り得ることを踏まえ、集客誘引性の高い大型遊具を導入することを計画したところである。



忠類小学校の児童会との意見交換を経て新設した大型遊具（平成28年9月末から一般開放している）

今後は、本公園で来園者が最も多く利用する親水施設に築山型の滑り台の整備を計画しており、3メートルほどの高さのある滑り台と親水池を連動させ、池に飛び込む感覚を楽しむというものである。

現在、小学生などからの意見を参考に、調査設計を行っており、住民に説明し整備を行おうと計画している。

この事業の費用対効果については、公園の遊具設置に要した費用に対しての効果を数値で測定することは困難であるが、帯広市や芽室町の公園の遊水型の滑り台は多くの子供たちで賑わいを見せており、子供に付き添う父母や祖父母が多いことから、本町でも大型遊具に加え、遊水施設を設置することは、さらなる集客誘引効果を引き出すものと考えている。

こうしたファミリー層のナウマン公園への集客により、道の駅やアルコ236など周辺の観光施設へと繋がり、飲食物の販売や温泉入浴への波及効果は大きくなるものと期待している。

再質問 民間ホテル事業者との間で提携に向け取り組んでいるとのことだが、その業者に業務委託をするのではなく、全部そのまま任せてしまえば良いのでは。

答 「地域の活性化のための核となるもの」、そういう思いがあつて地域の人たちが出資をして運営をしてきた会社であることから、潰すということにはならない。